

# 99' 夏合宿 報告書



信州大学 山东会

# 目次

行動記録 ..... 2

個人の感想・反省 ..... 3

係の反省 ..... 18

🐼 今の政治・社会について興味・関心をもっていることは何ですか？(いくつでも○をつけて下さい)  
不況・就職難・消費税・ガソリン・核兵器  
福祉・いじめなど教育問題・環境問題  
高い学費・その他(夏合宿ハンザイ)

🐼 今の政治・社会への不満・意見・こんな日本にしたい、など"なんでも"きかせて下さい。

山岳人口の若年化を  
目指す!!



🐼 日本共産党についてどう思われますか。  
意見・疑問・提案・期待することなど"

おしえて下さい。

山に登れ。

岩に登れ。

山会に入れ。

かえるネット   かえるネット

# 夏合宿

8/23 ~ 8/31 (8+1)

8/23 Box集合 扇沢発 黒部ダム 内蔵助平  
500 530 815 1230

明日はいよいよ熊の岩BC入り。ペースについていけば後は快適に登壇だけ。明日一日かンパロウ!! 今日モア1人を想ってモモンモン 梶原

8/24 330<sup>BC71</sup> 真砂沢 熊の岩BC  
525 925||1120 1555

この日は歩荷の荷物の重さより寒さかこたえた。やはり寒いとレション通かしはばりばり食ってしまってます。食べ物がエネジキになってるのと実感した。石川

8/25 本隊 BC 雪割 BC FIX隊 BC D.ピコル FIX張3 BC  
720 1130 725 745||815 1445

新人合宿の時ヒゲリスト、70をながか思い出せなくその上何回やっても出来なくて自分にごくはろかいたっていた。エフ

8/26 BC 洞穴  
530 545 → 745 小出発

川井 床大取付 終了 剣接合取付 終了 BC 岡本 剣接合取付 終了 魚津高取付  
630 815 930 1150 1240 620 935 1100

麦谷 中大取付 完小履 剣接合取付 終了 BC  
620 820 840 1000 1300 1335 1500

中島 剣接合取付 終了 中大取付 ケンズ開始 終了 三ヶ木 魚津高取付 終了  
600 900 1050 1330 1430 605 820

日岡 BC取付 終了 富山大取付 終了 BC  
630 820 920 1230 1400 900 1055 1140

天気もよく最高の一日。川井Leaderと一緒に床大、剣接合ルートに登り、とてもよい一日だった。石川

8/27 雨のため (沈)

8/28 BC 滝次郎取付 ケンズ 剣接合 BC  
540 700 1100||1145 1230||1250 1415

雨、風、木登り岩場、そして寒さ。これからMIXとれん実たもたお表、歩いている途中、この寒さが暑さに変わたらと岩登りホルネのジャンクルを思い出した。緊張感と卑しさの入り混じった縦走だった。中川

8/29 BC 真砂沢<sup>Allout</sup> パニコ谷乗越 内蔵助平 黒部ダム  
600 825 1005||1015 1115||1125 1430

予定変更で下山。(やい)。せめてもう一日は歩いておきたい。でも良い山行だった。歩荷もおわった。ヤイヤイ エンボ

## 夏合宿反省と感想

4 年 麦谷 水郷

毎年夏合宿でみられる傾向として、「危険に対する意識の低さ」があげられる。4 年間の夏合宿で、二度も事故を味わう(私自身も一度)という貴重な経験をしているのはそのためであろう。我々は剣という危険地帯(夏であっても)で、軽薄な行為をし過ぎているのではないだろうか。例えば、ガレ場を歩く際でも、我々は浮き石を落とし過ぎてはいないだろうか。浮き石一つに危険が潜在していることに、我々のどれだけが本当に認識しているのだろうか。

結果として、今年の夏合宿は無事故で終わったが、冷や冷やさせられる場面はいくつかあった。八ツ峰についても、石岡の中央大ルートの途中敗退の件、二年生パーティーのザイルが回収できなくなった件などは、B.C で見ていて心配でたまらなかった。それは今年の一年生の技術不足、二年生の本チャン経験不足というせいもあるが(あるいはそれも相まって)、潜在する危険に対してどれだけ各人が意識しているかが気がかりだったのである。潜在する危険を回避するには知識、経験が必要だが、何よりも意識するということがものをいう。

夏合宿は、夏の陽気な天候の中で行われる(本来)のだが、それ故に、危険に対して甘くなりがちである。しかし、夏合宿はあくまでも危険地帯での岩登りの合宿なのだから、潜在する危険性の回避術、意識また対処能力すべてをもって挑まなければならない。そのためには、何をすべきかは、もう言わずもがな。口を酸っぱくして言ってきたはずである。

### リーダーを経験して

今年は 4 年生が合宿ごとにリーダーを変わるシステムの中、私は夏合宿リーダーをやらしていただいたが、非常にいい経験をしたと思っております。初めての経験ということあって、皆様方には私のいろいろな不備な点が日に付いたことでしょう。しかし、これでも不慣れながら、リーダーとしていかに隊を効率よく動かすかを考え考えていたのであります。確かに効率よく隊を動かすことは大切です。けれども、それは経験によって次第に養われていくもの、リーダーたる者それ以外の何かを持っていないと切実に感じました。これから何世代に渡ってリーダーは生まれていくことなのでしょう、その方々、どうかそのことを忘れないでいただきたいのでございます。下手な文章での申し訳ございませんが、次世代のリーダー方々がこれを御精読なされることを願っております(嘘ぴいよーん)。

まず、1つ上げなくてはならない自分の反省は入山日を遅らせてしまい、みんなに心配をかけた事。これが1番の反省点。責任感を持つ事は大切だが、少しでも自分の予定の中に不確定要素がある場合はそれに十分に対応できるだけの日程を組むべきだ。た。"できると思う"では全体に迷惑をかけるだ。け。できるものはできる。できないものはできない。組織で動く時の必要条件を忘れていた。

以上は個人的な反省点。

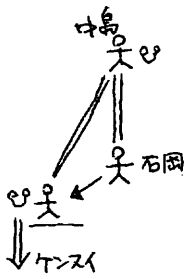
自分が参加した夏合宿では過去に2度事故が起きている。今回は天候の影響もあり、内容の半分も消化できなかった事も手伝ってか無事故で終わった。当然そうであるべき結果を出したまでだが、これは評価してもいいと思う。ただ、行動した日を振り返ると、常に事故の陰がちらついていて、これは上級生全体の責任だ。と、いい。楽しむ時は楽しむ。締める時は締める。危険な行為を行っている事を常に頭に入れて、メリハリをつけていかないと、取り返しのつかない事になる。特に、本音で経験の無い人を連れていく時はなおさら気を付けなくてはならない。

合宿全体を通してみると、新人合宿に引き続き体調を崩した人間が1人も出なかつた事、各自が3ヶ月前に比べてかなりレベルUpしている事など、良い面がたくさん見られた。"自分はどうか?"なんて考えもしたが、それは人に任せる。

これから2ヶ月もすれば冬山シーズンがやってくる。気を抜いているヒマは無い。今回の反省を生かし、冬も前に各自が意識を変えていく必要があるように思う。

(反省) ○ ハツ山 Aフェイス 中大ルート の 1P目、私がリード、  
 一年の石岡がフォローで登って、私が支点で確保、  
 している際、石岡が途中から先に進むか懸垂で下り  
 ことをした。この時、上にいる私はその場で石岡を  
 テンションをかけてその位置から少し下の安定し、かつ  
 ハーゲン・ボルトが数個打ってある所まで下ろした。そして、  
 そこで上から指示を出し、セルフビレイをとらせ、ロープを  
 解き、私はひきまわし石岡の所まで懸垂で下り、そこ  
 から2人で取付まで懸垂した。結果的には何  
 なく下りれたが、後のリーダー合戦での判断では、  
 この方法による下降には事故の危険がひそんでいた。

中大ルート1P目



その危険とは、壁の上で、一年の石岡を一人だけでいさせた  
 ことかあった、すなわち、私が上から指示を出して、  
 セルフを取らせたことにある。この際、初めての本チャ  
 (2本目ではあるが)で手間どったりとまどいもあるだろう中、  
 一年生のみ作業をさせることに大きな危険があった  
 ということだ。ではどうすればよかったかというと、ロープを  
 固定し、石岡がプル・ジックで脱出法の要領で私の  
 いる支点まで上がってきて、そこから2人で懸垂すればよかつ  
 のである。

しかし、石岡の精神状態、というか登攀意欲というもの  
 かなり、ナーバスになっており、プル・ジックでも登っていたか、  
 どうかは少々疑わしい。総合的な反省と、その対策とい  
 った懸垂下降を決定するまで石岡は一時間以上悩ま  
 して、リードする側の私は、A0でききようもっと細めにランナー  
 等をとっていかればよかったと思った。次に、上ぶした、懸垂する  
 までの方法。そして、それに対する策は、やはり何といても  
 岩登りに慣れることではないかと思う。特に中大ルートは  
 クラックがあり、その登り方に石岡はとまどっていた。岩トレ  
 なども、フェイス以外にクラックの登ハンもしたほうがいい。

以上、報告も兼ねた登ハン中の反省を挙げた。

- (感想)
- ・ 雨が強く、トラン工本半と源次郎尾根のみ。
  - ・ 途中入山でハンゴ谷東越を越えてきたが、一人で歩くのもなかなかよかったです。歩き易くなっていったのには驚いた。
  - ・ 帰りのトリーバスは、相変化が周囲に迷惑をかけていた。子供は素直に鼻をつまむ。



### 1年生

縦走後ということもあってか、各人「歩く」ことに関しては春より力がついたなど、見ていて感じました。しかし、四肢を使っただけで、「登る」方は4人共まだまだ絶対的に力不足です。度胸も足りません。もっと日常に重力に逆らう時間を多く持ちましょう。技術が身に付けば、自ずと自信もついて度胸もつきます。頑張らしましょう。全員で4人と、少ないわけですが、1年生の仕事はそれはそれで変わりません。ブーブー文句を垂らす暇があったら働きなさい。これから冬に向けて各自心して短い秋に取り組んでください。

### 2年生

係の仕事、アプローチの歩荷等お疲れ様でした。縦走も終わり、合宿も終わりとりあえず一段落、といったところでしょうか。2年目ともなると自分の不足部分は指摘されなくても自分で十分わかるはずですよ。それを今後に生かしましょう。2年生を見て思うのは、お互いの厳しさに欠けることです。もっと互いに競い合い、活を入れあうようなところがあってもいいような気が、個人的にします。冬合宿では、気魄と共に雪をかき分けて突き進む4人の姿を期待しています。

### 3年生

岡本、日高、3人でも頑張るぞ！！来年は4年だ！俺たちが法律だ！

### 4年生

就職等を控え、忙しいとは思いますが、山岳会で4年としてやって行くと決めた以上はそれなりの覚悟をもっての事だと思います。残りの半年、もっと激しくいきましょ！

### 最後に自分

体の贅肉は減ったものの、心の贅肉が増えてしまった。一番よくないことだと思う。そんなことから自分を追い込む意味で今回はひとのことを色々書いた。これから精進いたします。



# 反省・感想

岡本

偵察に行くときは、油は行けないと考へるので、  
はた、行けるルートと油をどう使えばよくなるか  
右図がつぼ、つぼとま、ま、横に引いた。  
何のアウトも戻してきなかった。  
下山の途中、時間か、やばくあてきたとき  
ちよとあせりして、指示が少なかつた。  
魚津高はなめてかかった。

Fix隊として先行したか、サイルを出すかど  
うか迷った。どうあえて、サイルを出すかどうか  
てなやまはあほらしいことなので、出すなら出す  
出たなら出たといふ、さう決めるべきだ。



## 反省 感想

反省

今回 2回 fix 隊に出たが fix を張る場所  
どういう風に張るか、等の判断、スピードに欠けていた。  
これは場数を踏むしかしょうがない。

ルフィのミス。RCCルートのルフィをまごう。

総会で言われて気付いたが、やはり、全体を見る  
目からできてない。

全体を見るというのは今の自分にはとても大事な事  
である。これからは意識していかなければ。

感想

登山1日、縦走1日の夏合宿。  
しかし、自分にとっては意味のある合宿だった。

また、1,2年のボッカを見てると、ボッカをして  
るのが俺じゃなくて、それを見てるのが俺、というので  
少し不思議な気がした。もう2年も経ったんだな  
と思った。しかし、1,2年は強い。

来年は全部快晴 抹はくもりを望む。  
1,2年おつかい。

## 夏合宿、個人の反省と感想

### 反省

まだ全体を見る力に欠けていた。また自分が疲れていると一年人の配慮がなくなる。しかし、隊の中で、自分が何を成すべきかが、解ってきた。上級生としての自信、プライドを持てた。

### 感想

正直言って、きつかった。腰が痛い。でももう終わり。やったー!!

本チャン経験が少ない自分であるが、少ないから不安になるのではなく、自信を持って登れた。岩に対して、気持ちの面では120%勝っていた。本チャンは精神力だと思う。

びびるな一年!!

1日しか登れなが、たければ、9月、10月とバシバシ行こう!!

梶原 (K)



# 夏合宿の反省・感想

横山  
勝正

## ～反省～

準備の段階で、装備やエッセン係とも連絡をとり、大限の協力をすべきたった。そうすればもとスムーズに事が運んだだろう。唯一の松本邦員なのだからやることはやるべきだと思った。歩荷は甘く見ていたが、それなりに辛かった。しかし良い経験をしたいと思っている。あと1回くらいやってもいいような気がする...。全体を通して、もって1年生に気を配るべきで、上級生はすごいと感じた。個人山行をまだし、十数人にもなる合宿になると、細やかな気配りが必要である。

本チャンは、まあ仕方ないと思う。天気には勝てない。しかし、登山2日目の経験は良いかだった。自分で判断して動くのはあとになってすごく気分がいい。あとはそれをBCに連絡しよう。FIXは経験不足。時間かかりすぎ。

## ～感想～

たのしかった。それも全体のことに考えて行動することもなかなかたのしいと感じた。本チャンは行けるだけ行くべきだ。今の1、2年生はこれで本チャンの経験がかわるくらい少なくなったが、これからのがんばりでなんとかカビ一しなればならない。自分も含め、更なる積極性を求めよう。最後に、歩荷 ありがとう。そしてさようなら。

〔反省〕

今回の夏合宿では自分の甘さがもろに出てしまった。

体力・技術面はもちろんのこと、精神的な面においても未だまた  
ということを感じた。

隊における2年生としての役割を満足に果たすこともできなかった。

もっと広い視野を持つことが必要だと思った。

おれ悲観的になつてしまふ方がないし、足りない所は補えるよう  
努力すればいい。

今回得た反省を次に活かせるようにしたい。

〔感想〕

去年は夏合宿不参加だったので、今年は何もかもが全く  
初の体験だった。

能の岩に着いた時にはまだ素直にうれしかった。ここが能の岩が  
とちよと感動した。

2日の夜、ガスが晴れて、姿を現けたハルム峰の勇姿にも感動。

肝心の登山が1日しかできなかったことにはがっかりしたが、

天候はがりにせうしつもない。

今年の夏も、気圧も、どうに去ってしまったんだろうか？

しかし、夏合宿を体験できたということが、僕には  
経

一番意味があるように思えた。

おわり

# 夏合宿の反省と感想

石岡春彦

## 反省

- もともと膝が悪いので合宿等の長期間の山行では膝に疲れが出たり、痛めたりしがちである。何とか脚部の筋肉を強化してなるべく膝を保護できるようにしたい。
- 岩登りが下手で苦手なので、もっと練習を重ねて余裕をもって登れるようにしたい。
- 合宿中の行動、例えば、起床後やエッセン、出発の準備など細かい動きを素早くできるようにしたい。

## 感想

誰もが思っていることだろうが、今回の合宿は天候不順に苦しめられ、多少欲求不満気味で下山する形となった。それでも一日は岩登りに当てられ、剣ヶ峰の頂上に立つこともでき、幾つかの収穫はあったろう。

個人的には熊の岩T.S.の居心地の良さに感嘆した。月と岩と雲海が美しかった。晴れてさっぱりいけば、何日でもほっとしていられそう。

とにかく来年こそは連日快晴を期待したい。

# 夏合宿報告

1回 中川隆志

夏合宿前は、歩荷、本チャンのことを考えると不安で一杯でした。  
でも今振り返ると歩荷は思っていたよりもしんどくなく、バトルなども  
怖くありませんでした。むしろ歩荷のこと、長次郎<sup>郎</sup>谷の雪渓が考えていたよりも  
軽かっただけです。本チャンはやはり怖かったです。レベルその倍  
楽しめた気がします。高度感、緊張感、いずれもいっしょに経験した  
ことのないものを感ぜました。でも、自分のライニング技術、体力はまだまだ  
不足していることも実感しました。来年は気持ちよく登れるよう、レベルアップ  
しておきたい。今は歩荷も重量や来年は増やそう。これにあわせて体力を  
つけていけるようにしたい。いざいざせよ、縦走後ということもあつた  
のかも知れないけれど、新人合宿の時の自分に比べれば、はるかに  
強くなっています。今後とも全てを伸ばしていきたいと思います。雪割。これは  
自分もやってきました。最後は止り出したが、雪が止まってくると  
というべきでしょう。自分の力で止らなければいけません。今日の一番課題は  
これ。次回はマスターしたい。雨の源治郎尾根は悪コンディションで  
あったが、その日でも行きました。木登り、岩、雨、寒さ、懸垂下降、高度感、  
寒さ、暑さに変りかたは、ホルスネオのシングルを思い出す。帰りは疲れた。  
縦走から始まる。心臓を問うのはこれだ。夏合宿。体を休めた日から一日も早く、  
一身に疲れが出た気がします。これだけの経験である。でも、1ヶ月、3ヶ月  
くらいこのような状況に耐えなければ海外にはいけない。これらは緊張さ  
のみ。ときには雨にやられる。来年は全日晴れの日を！



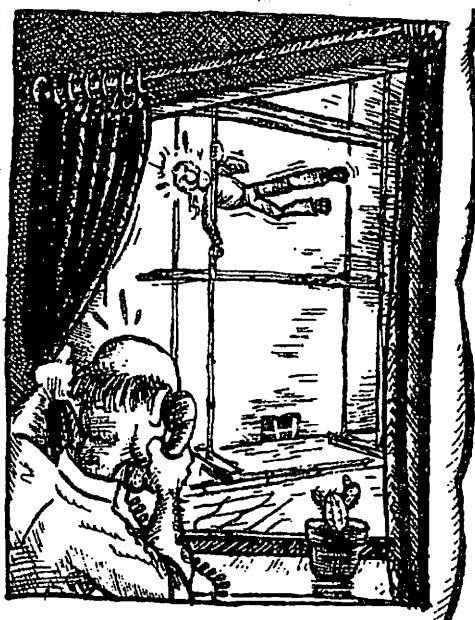
# 复合宿の反省と感想

中村圭一

**反省** 今回の合宿で、山岳会に入ると2日目の合宿となるが、合宿とは準備段階から既に合宿に入るといふ事を感じさせられた。特に第一に寝れなかりと取った事から上げられる。縦走が終わり、一週間縦走の片づけ、岩山、実家に帰るなど、かなりハードな生活を送るまい。これに合宿の準備の出来の前の夜もよく眠ることが出来た。この失敗をおかしては、また合宿の一週間前ぐらいには、ちゃんと体調管理をおこなうと今回の合宿におもい知らせられた。

→自分の失敗は、特に食についてである。シメの方はかなり強化して行きたが、お肉ソーセージが「暑気お」と思、よくない。これは特に食について、全体的な物をかなり強化して行こうと思う。

**感想** 1日目、2日目のボウカはバテバテの味だが、長次郎谷へ登りは、おと長い物だと思、ていたが、これほど切れた様に見える。本ヤニについては、箱を2本しか登れなかった。高度感になれることが出来たので、これから秋の山行で、徐々に慣れていこうと思う。全体としては、ボウカあり、雪割あり、本ヤニあり、縦走あり、次でんあり、中味充実した合宿だったと思う。ただ、欲を言えば、おれ本ヤニルート登りたかた戻もある。たが、来年、ま、この中、久留米ルート、ホルフリー、おれ、おれで登るぞ!!



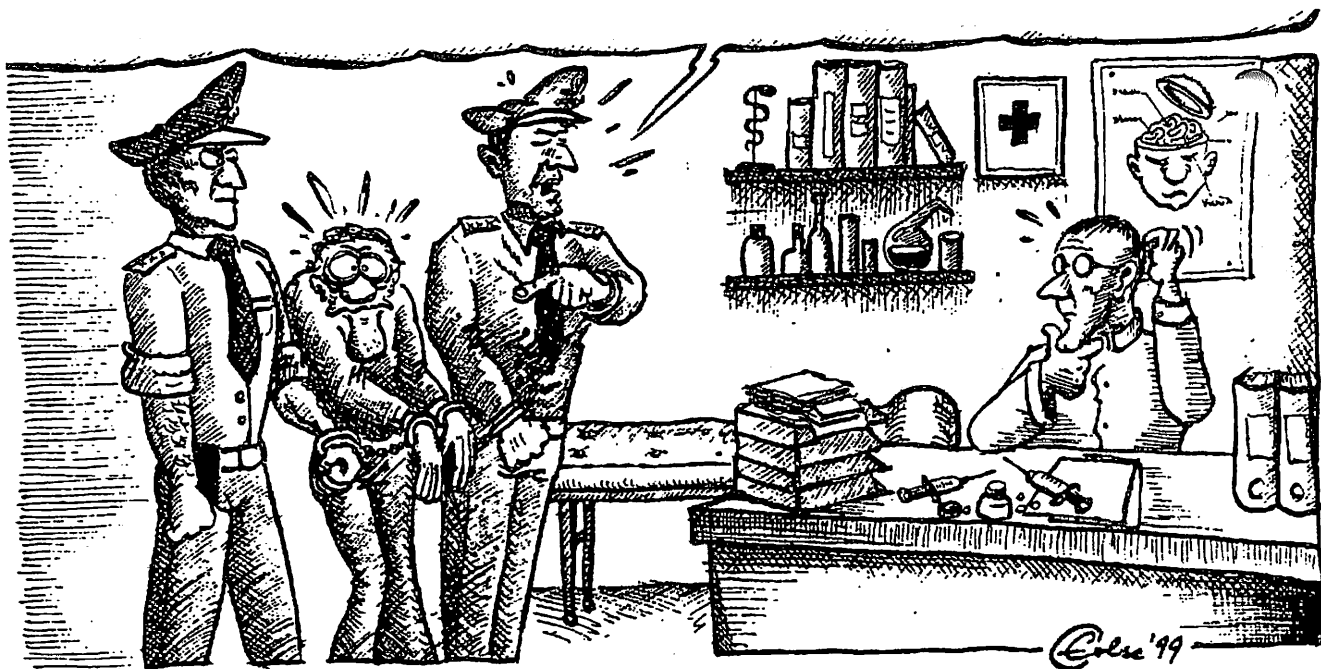
野川謙介

<反省>

初めての夏合宿と言うこともあり、自分的にはかなり未知なる物への緊張感が終始あったと思う。歩荷はやはり一番怖く注意しなければいけないだろう。長時間重荷で歩きつづけた後ほど注意力の途切れる時はない。筋肉も弱まっている。そのため下山時には気のせいか入山時より精神的にも肉体的にも疲れていた気がした。自分が一番怖かったのがアイゼン歩行。幾度となく転びそうになり周りのみんなに迷惑ばかりかけてしまった。冬合宿に向けての新たな課題であると思う。岩登りは落ちれないと言う条件があったがそのプレッシャーが逆にいい緊張感となり気持ちよく登れた。不思議と怖くもなかった。次回の北岳では気持ち引き締めかつ気楽に楽しみたいと思う。雪訓では確実に前回からの進歩を得たと思う。体が頭についてくるようになり余裕も出てきた。更なるバリエーションに備えていきたい。生活面では諸事情によりエッセンテントに入ることが多かったが、雨の時などに非常に助かった。逆に暑い時のエッセンは非常にしんどい。源次郎尾根の縦走は途中から雨となったイヤな展開だったが、岩のぼりとは一味違う剣の魅力だった。この縦走で荷物はやはり整理するものだ、と実感した。総合的に見てやはり天気泣かされた合宿だったと思う。幸い一回は登ることができたのでそう悲観的にはなれないがやはりもっと登りたかった。次回また剣に行ったら今度はしっかり晴れてもらいたい。

<感想>

今夏二回目の剣は一回目よりも大きく見えた。取り付きから上をあがめると、吸い込まれそうなほどの青い空と見事なまで逞しい岩々が素敵なコントラストを描き出していた。登っている時に自分がこの剣岳と言う大自然の産物と同化しているのを感じた。それは何十万年という年月を得てきた岩々とわずか二十年と言う短い月日しか知らない僕が限りなく近ずいた至高の時だったとも言えよう。幾人もクライマーを雄大に迎え入れる山、剣岳。今回の夏合宿でロッククライミングが少し面白くなったような気がした。

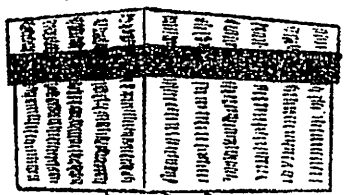


# ~~本~~の叫び

係

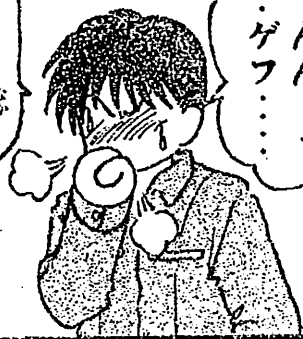
大きいつづらと  
小さいつづら……

どっちの  
つづらが  
いいかしら？



んっ……んっ  
ゴホ……ゲフ……

ま……まん中  
……かな？



むかし  
かつてに昔話シリーズ  
した  
下着にすすめ

一番の反省は全体的に量が少なかったことである。

めし然り、汁然り、

合宿は個人山行と違い4人することなく、適量の範囲で、  
最大限のエッセンを心がけよう。

エッセンは合宿中のオアシスなのである。

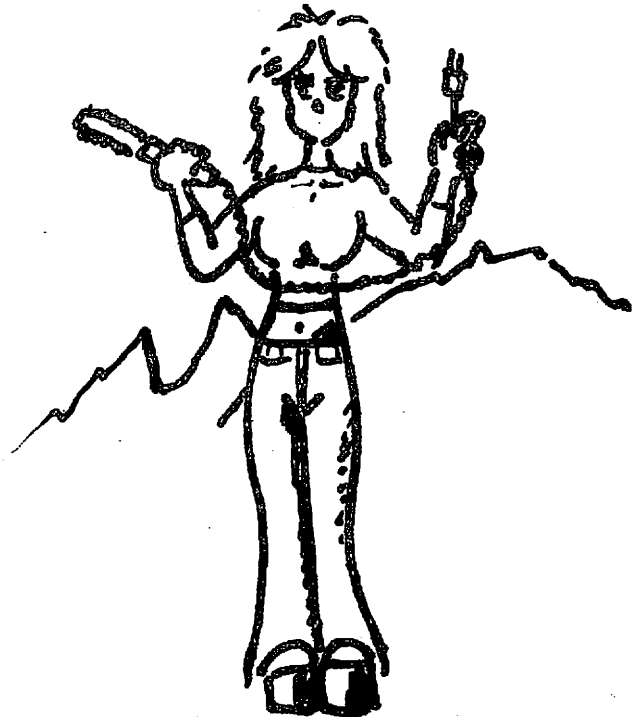
最後に、かき氷を食べなかったのはなんとも残念である。

対策としては、晴れたら速<sup>ニ</sup>食う。

もしくは「雨、風でもおれは食う」という強い根性が必要である。

(細かい反省)

- ・ 砂糖を袋で持ち、いくなら1回ごとに分けて。
- ・ 調味料は色々持って行く。(塩、こしょう必須)
- ・ ラトルー1箱。
- ・ 7枚切、割りかけは1パック2パックずつ



## 装備の反省

- ・ テントのフライ、本体のチャックが破損している。冬までに修理に出すべき。
- ・ MSR 炎上。下界でしっかりとチェックはした。原因不明
- ・ 白が스가少なかった。1日80ml ぐらい(野菜入りペミ)
- ☆ Fi X 隊に赤布、赤テープを持たせる。

メタ ... 33本消費

カラビナ ... 2枚不明

白ガス ... 5.3 L消費

はし ... 1.5膳不明

シュリンゲ ... 9本残置

縦走などで忙しく、何もできなかった。7

月中に出来ることはすべてやっておこう。や

っぱり装備係は在松がいいね。

## 医療の反省

松崎 林太郎

- ・医療缶の中味は、冬合宿、新人合宿のものと変えなかつた。  
そのため仕事がほとんどなかつた。
- ・内蔵助平での虫対策をもう少し考えれば良かった。

## 会計・渉外の反省

- ・車の手配はもっと早め(縦走前)にやっておくべきだった。
- ・車への荷物の積み込みの時、渉外が指示を出す。  
上級生にやらせてしまった。
- ・渉外の仕事として、アプローチの状態(雪溪の状態)などを  
事前に調べておくべきだった。
- ・会計は、山に入る前に一回計算しておくべきだった。  
山岳救助本部(076-465-5778)

## ○ 会計報告

収入 290000円

支出 246985円

- ・食費 69683円
- ・装備費 127112円
- ・交通費 50190円

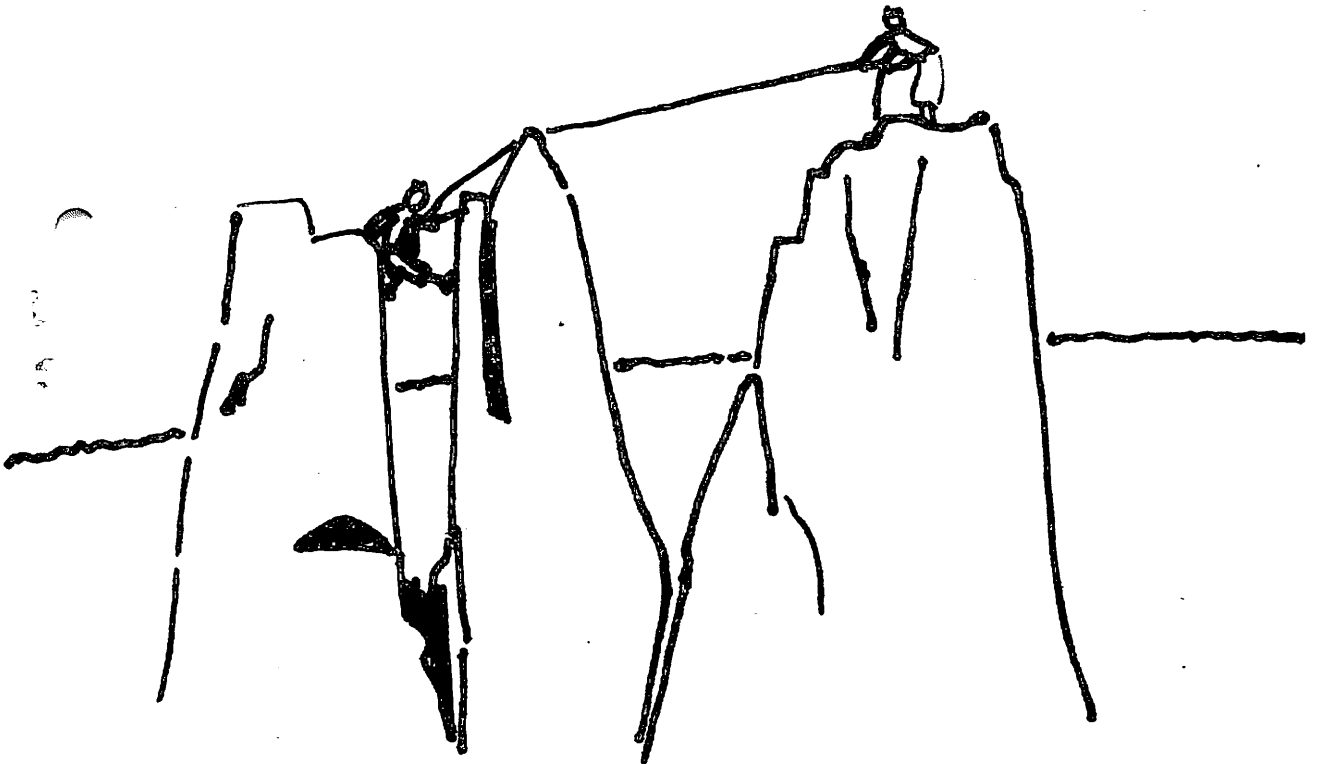
残金 43015円 (使途不明 249円)

## 気象係からの反省

★天気には勝てません。

最初の予測と大違い。予測といっても自分の希望だったか。年生は良く書けるようになった。もっと良くなるには、等圧線をわかりやすくするとか、低気圧等の位置をはっきり書くとか、細やかに。そして更なるスピードアップが望まれる。

（気象係は毎日、天気予報をきくべきだ。その点に関しては怠ってしまったこともしばしば。前もて、天気予報の時間を調べておくことも大切だ。また、夏なら山の天気、冬は高層天気図をやるので、チェックは絶対。



# 恋愛社会学

彼のこと、愛しているけど、  
距離を置きたい、ときめがない

私の恋って

うすいかも？

表紙：ノック

編集：中村

印刷：松本

発行：信州大学山岳会